

# 医大ニュース

No.69 2000.10

発行 京都府立医科大学

〒602-8566 京都市上京区河原町通

丸太町上ル梶井町465

TEL 075-251-5210 FAX 075-211-7093

## 基礎医学学舎第2期第2工区新築工事の進捗状況

基礎医学学舎第2期第2工区は、建設費9億3,700万円をかけて、学生実習室を備えた鉄骨鉄筋コンクリート造地上3階建の建物を新築しているところです。

平成12年1月27日(木)に起工式が行われて以来8ヶ月が経ったところですが、基礎医学学舎第2期第2工区の新築工事はこれまで滞りなく順調に進んでおり、平成13年3月には計画どおり完成をみる予定です。



現在の様子



完成予想図

### 目次

1 基礎医学学舎第2期第2工区工事進捗状況	1	・トリアス祭	7
2 オーダリングシステムについて	2	・医大スポーツ祭典	8
3 教授就任あいさつ		6 特集	
・第一内科学教室	4	・医大附属病院の認定看護師、ご存じですか?	8
4 包括外部監査の結果について	5	7 エディンバラ大学派遣学生報告レポート	9
5 学内ニュース		8 お知らせ	
・大学単位互換事業	6	・公開講座	12
・短大単位互換事業	6		

# 患者サービスの向上と適切で効率的な医療の提供をめざして

## -- オーダリングシステムの導入 --

医療情報部

附属病院のオーダリングシステムの導入は、平成14年4月の全面稼働に向けて現在急ピッチで開発を進めており、各診療料及び各部門の医師、看護婦、技師などで構成される医療情報システム企画調整委員会の各部会で、導入後の業務運用などの検討を行っています。

非常に厳しい財政状況のもとで、附属病院の医療情報化の発展につなげ、21世紀に魅力ある附属病院づくりのため、病院業務を支えるあらゆる職種、部門の横断的な連携が必要です。

オーダリングシステムの導入に向けて、今後とも全面的な御支援をお願いいたします。

### オーダリング等システムの概要

今回導入される病院総合電算システムは、オーダリングシステムを核に、臨床検査システムや看護業務支援システムなどの院内各部門のシステムを院内ネットワークで結び運用するシステムです。

システム	概要	
オーダリングシステム	基本機能	操作者の確認、メニュー表示、患者選択方法、セット登録、頻用登録など共通機能のコントロールを行う。
	診療オーダ	各オーダ画面共通のオーダ履歴の表示、オーダ編集などの機能のコントロールを行う。
	患者基本オーダ	患者基本情報の登録・変更、患者基本情報の照会を行う。
	病名オーダ	病名の登録、登録病名の照会を行う。登録された病名は、レセプトを作成するときの病名に使用される。
	入院基本オーダ	入院の予定・決定、退院の予定・決定、外泊・外出、転科・転室、転棟予定・転入確認、主治医、担当看護婦などの登録・変更を行う。
	食事オーダ	食事オーダなどの登録、変更を行う。
	処方オーダ	処方オーダの登録・変更、院外処方箋の出力を行う。他科の処方オーダの内容検索などが可能。
	注射オーダ	注射オーダの登録・変更、注射箋の出力を行う。
	検体検査オーダ	検体検査オーダの登録を行う。
	診療予約オーダ	予約登録・照会・予約一覧表の出力などの予約スケジュール管理を行う。
	放射線検査オーダ	放射線検査オーダの登録・変更を行う。CTなどのオープン予約検査の場合は、予約情報も併せて登録を行う。
	生理・病理検査オーダ	検査オーダの登録を行う。予約検査の場合は、予約情報も併せて登録を行う。
	手術・麻酔オーダ	手術予約の登録、手術予定の照会、手術及び麻酔申込書、手術予定票の出力などを行う。
	処置オーダ	処置オーダの登録、照会を行う。
	リハビリオーダ	リハビリ依頼・実施の登録、リハビリ依頼書・リハビリ処方箋などの出力を行う。
輸血オーダ	輸血製剤オーダ・輸血検査オーダ・自己血オーダの登録などを行う。	
検査結果照会	臨床検査システムの検査結果を取り込み、オーダリング端末にて画面参照や結果出力を行う。	
部門システム	物品管理システム	発注・納品・在庫・在庫管理に係るデータ登録、在庫数・請求数一覧などの関係帳票の出力を行う。
	薬局管理システム	オーダリングシステムから処方オーダを取り込み処方箋を出力するほか、DI(薬剤情報)検索、薬歴管理などを行う。
	放射線情報システム	オーダリングシステムから検査オーダを取り込み、予約管理、撮影実施入力、フィルムの出庫管理を行う。
	看護業務支援システム	患者情報・入退院・転棟・転室・外泊などの患者及び病床管理、看護予定ワークシートなどの出力を行う。
	透析管理システム	透析患者の情報管理、ベッド予約管理や検査結果照会などを行う。
	輸血管理システム	オーダリングシステムから輸血検査・製剤オーダを取り込み、血液型・交叉適合試験などの検査結果管理、交叉適合報告書・輸血血液支給表などの出力、血液製剤の在庫管理などを行う。
	病歴管理システム	患者の病歴をコンピュータ上で管理し、各種資料の作成を行う。
	経営分析システム	各システムのデータを取り込み、収支バランス、収益構成、費用構成などの帳票出力を行う。
医事会計システム	現在稼働中のシステムであり、オーダリングシステムとオーダ情報の連携を行う。	
給食管理システム		
臨床検査システム		
病院病理システム		

オーダーリングシステム等の稼働開始予定

オーダーリングシステム及び部門システムは、平成14年4月から全面稼働の計画ですが、入院オーダーリングシステムと外来オーダーリングシステムを平成13年に段階的に稼働させる予定です。

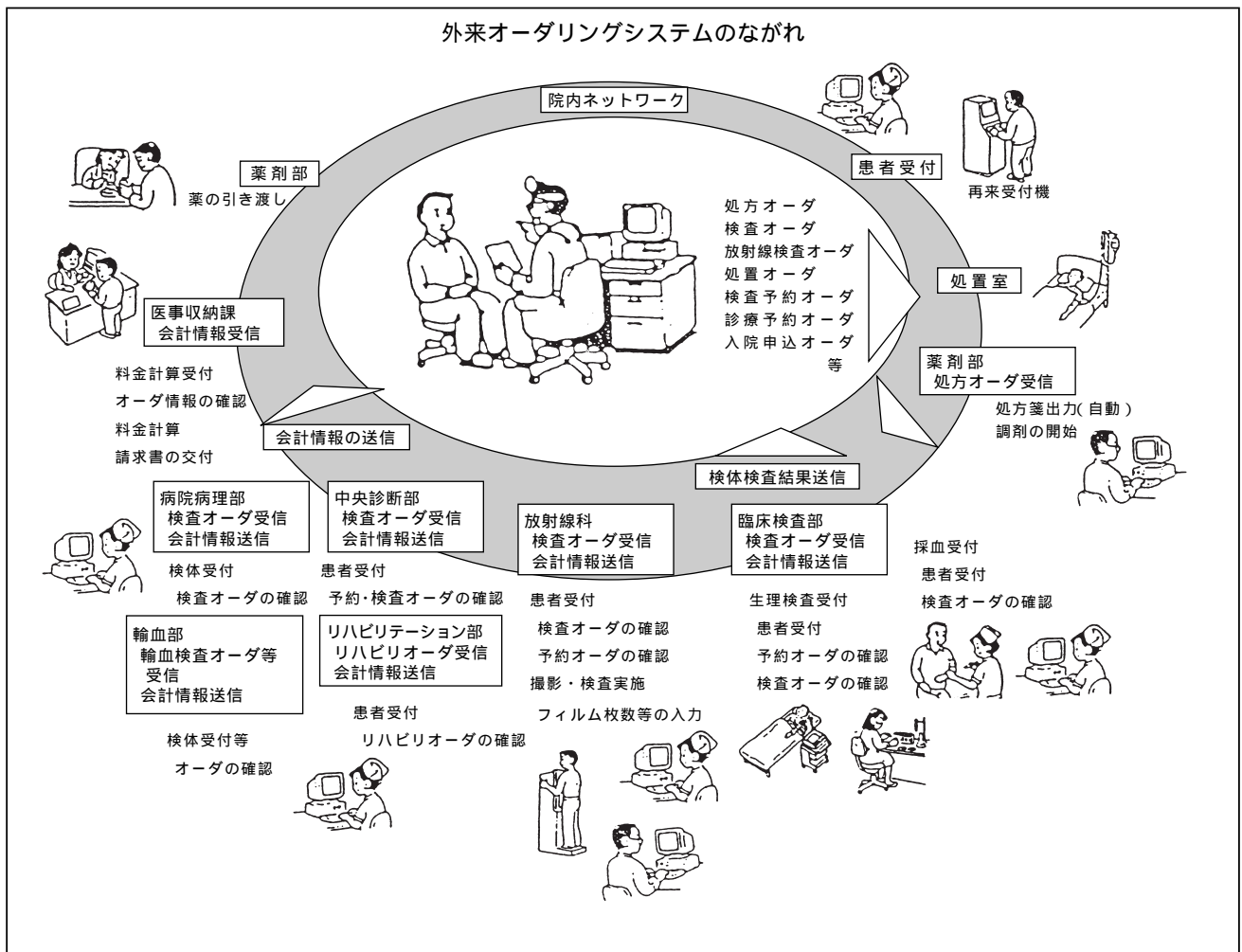
オーダーリングシステムの導入目的

患者サービスの向上	・調剤や会計の待ち時間の短縮 ・検査などの予約のための患者動線の短縮など
伝票の省略・簡素化	・患者が処方箋、検査箋などの伝票を持ち運ぶ不便さを解消
診療支援	・データを共有化することによる他科の指示歴や検査結果などの参照
診療報酬請求精度の向上	・入力時にチェックすることなどによって請求漏れなどを防ぐ

オーダーリングシステムとは

オーダーリングシステムは、外来診察室や病棟のナースステーションで医師が処方や検査などの指示をする時点から始まり、入力された処方、検査などの指示データは、ネットワークを通して即時に薬剤部や検査部門に伝わり、逆に部門システムが持っている情報、例えば臨床検査部の検体検査結果データ、薬剤部のDI情報、放射線科のCT検査などの予約情報や他科の処方、検査などの指示歴を、ネットワークを通して診察室やナースステーションの端末から検索することができるシステムです。

なお、オーダーリングシステムの内容については、今後適宜お知らせいたします。



## 教授就任あいさつ

「医療変革期にあたって」



第一内科学教室教授 吉川 敏一

平成12年9月1日付けで第一内科学教室を担当させていただくことになりました。私は、昭和48年に京都府立医科大学を卒業後、主に第三内科、第一内科、ルイジアナ

州立大学化学科、東京大学先端科学技術研究センターなどにおいて、臨床と研究に今日まで従事してまいりました。

活性酸素やフリーラジカルによる疾病発現機構の解明と、それらの消去による疾病予防法の確立を主な研究テーマとしています。酸素由来の様々な分子が疾病を引き起こしていることは、地球上に住む好気性生物の有している宿命ともいべきもので、この事実を認めながらその予防を心掛けていくのが最善の方法と思われます。今まで先端的治療を目指してきた近代西洋医学も、ようやくここに至って病気を未然に防ぐ予防法に本格的に目を向けるようになってまいりました。酸素や窒素由来分子の制御が、それを可能にするものと思われます。

一方、大学は全国的規模でその教育システムや研究機構の大改革に取り組んでいます。従来からの農学部や工学部などの名称は消えつつあり、教養課程も変革を遂げよ

うとしています。医学部もその潮流を受け、各大学はそのビジョンを国へ提出し、着々と独自の変身を遂げています。この中にあって、輝かしい歴史を誇る我が母校も、新しい将来構想を持って生まれ変わろうとしています。基礎、臨床両分野における、研究面での協力体制、関連病院との連携を強めた臨床能力の強化、これらのすべてを結集した新しい教育システムの構築など、やらねばならない改革が迫っています。京都府立医科大学の特色を生かした素晴らしい大学の変身を目指しているこの激動の時期に第一内科学教室を主宰することになり、その任に対する不安は計り知れないものがありますが、微力ながら全力で母校の発展に尽くしてまいりたいと考えております。よろしくご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



## 包括外部監査の結果について

附属病院の経営改善対策につきましては、平成10年7月の「京都府立医科大学外部評価委員会」の提言に基づき、これまで各部門で教職員の皆さんの協力により、様々な取組みを行いました。例えば、①平均在院日数の短縮、②病床利用率の向上、③院外処方箋の発行促進、④診療報酬請求漏れ防止対策の推進、⑤適時適温給食の実施などを重点的な柱として実施し、赤字額の削減に一定の成果を得ています。

しかし、附属病院運営を取り巻く環境が大きく変わりつつある現在、無制限に一般会計から多額の繰入金を受けることは問題があります。平成11年度には、京都府包括外部監査（包括外部監査人中野淑夫）が、府立3病院と府立医科大学附属病院に対して実施されました。

その包括外部監査の指摘や今日の厳しい京都府の財政状況等を踏まえて、病院財政の健全性の向上を図るため、より一層経営改善に取り組む必要があります。

### 第1 包括外部監査結果の概要

#### I テーマ選定の理由

- ① 長期間にわたり「赤字」が継続しており、一般会計からの繰入金が大きい。
- ② 京都府が府立3病院と附属病院も財政再建のための重要な対象として取り上げている。

#### II 府立3病院と附属病院の現状と課題

府立3病院と附属病院は諸規則の制約の中で、改善に向けて努力しており、事実、一定の成果は現れている。しかし、以下の現状につき、検討かつ改善することが望まれる。なお、これらの課題には中長期的な検討課題も含まれている。

#### 1. 共通

##### 現状

- ① 一般会計からの繰入金を削減するという目標が必ずしも明確でない。
- ② 他の公立病院に比べて給与費率が高く、医業損失の大きな原因となっている。
- ③ 各部署に所在する医薬品材料の在庫実態の把握と在庫管理の徹底が不十分である。
- ④ 政策医療と通常医療の区分が明確でない。

##### 課題

- ① 府庁に「府立3病院と大学附属病院の経営に関する特別プロジェクトチーム」の設置。また、府立3病院と府立医科大学に「経営改善計画実行委員会（仮称）」とその下に「作業グループ」の設置。
- ② 「特別プロジェクトチーム」は、以下の課題についても検討する。
  - ・病院長権限の強化および機動的な病院運営実施についての検討。
  - ・P.F.I.の導入を含めた、公的病院としての機能・役割についての検討。
- ③ 職員定数や組織の見直しと非常勤職員の採用等による、給与費の削減と人件費の「変動費化」の検討。
- ④ 医薬品材料の在庫管理の徹底および一括共同購入の検討
- ⑤ 外部委託を推進する立場からその導入についての総合

##### 的な検討

- ⑥ 病院経営に精通した事務職員を育成・配置できるよう、中長期的な人事上の配置検討。
- ⑦ 政策医療と通常医療の区分経理ができるよう、経理規程の改訂と会計システムの構築。

#### 1. 個別

##### (附属病院)

##### 現状

- ① 「経営改善計画」の実施により一般会計からの繰入金は減少しつつあるが、研究・教育と医療の区分等が明確でないまま、大学と附属病院全体で毎年100億円以上の一般会計繰入金を必要としている。
- ② 附属病院の置かれた厳しい状況を改善するための、教職員の意識改革を含めた全学一体となつての取り組みが不足している。
- ③ 職員定数の範囲内にあるとはいえ、他の公立大学病院に比し、特に看護婦と技能・労務職員（用庁務、保安、家政、汽缶、電気整備等）の職員数が多い。

##### 課題

- ① 「経営改善計画」を一部幹部職員だけのものとすることなく、それを着実に遂行するための推進体制および監視体制の整備。
- ② 看護婦については非常勤職員の積極的な採用、技能・労務職員については外部委託の積極的な導入。効率的な看護体制実施のため、病棟再編も含めた看護体制の抜本的検討。
- ③ 院外処方の推進と、医薬品・診療材料の適正数量把握および費用対収益面での検討。
- ④ 病床稼働率の向上、平均在院日数の短縮、長期入院待ちの解消、およびそれらに伴う収益増加のために、ディビジョン制のより円滑な実施と共用ベットの増加、並びに再入院システムや市内在宅看護支援センター等との協力関係の構築についての検討。
- ⑤ 医療制度の改正（紹介料制度等）に対応した、特定機能病院としての「病病連携」「病診連携」関係の構築
- ⑥ 大学と附属病院の会計を区分する、および私立医大病院との損益比較を可能にする「基準」および「会計システム」の整備

#### 第2 本学附属病院の本年度の取組み

本学は、包括外部監査の指摘を受け、次のとおり経営改善推進のための体制整備（平成12年6月8日教授会承認）を行い、経営改善計画の策定や改善に取り組んでいくこととしています。

##### ①附属病院経営改善推進会議（委員長：学長）

……計画推進大綱の策定

##### ②附属病院経営改善計画実行委員会（委員長：病院長 委員には外部委員も含む）

……具体的な取組方策の決定、計画案の検討

上記体制の下部組織として、①経営改善計画案作成のための調査、分析、検討、②具体的課題の抽出、取組方策の検討を行うため、関係部門で構成する「附属病院経営改善計画作業グループ」を設置。



# 学内ニュース

## 平成12年度単位互換科目「法医学序論」集中講義 「死の医学と生の医学」

単位互換とは、他大学の科目を履修し、それを所属大学の単位として認定してもらうという制度です。(財)コンソーシアム京都の単位互換制度に参加し、本学学生が他大学の講義を履修するとともに、本学からは7月27～28日の2日間法医学教室による「死の医学と生の医学 - 法医学序論 - 」が単位互換科目として他大学学生に提供されました。

両日とも朝8時40分から夕方の4時30分まで、「法医学への招待 - 法医学は生と死のための医学である - 」「子供の虐待」「医療事故に関心のある人のための法医学入門」「医療事故に合わないための応用法医学」「中毒学とアルコール・薬物依存」「突然死の現場から」「死体とは何か」など、幅広く内容の濃い講義が行われ、約50名の単位互換履修生が受講しました。

講義の中で使われたスライドの写真にショックを受けた学生も多かったようですが、先生方の丁寧で熱心な講義に感銘を受け、

「絶対に自分の大学では受けられない講義を聴けて大変感謝している。この経験は今後の人生にとっても役立つと思う。」「死について考えることができた。生を今まで以上に大切にできるような気がする。」「死因を探求することでその人の権利を守り、犯罪であるならば次に起こることを予防する、その人の死を多くの生のために活かす学園

なのだと感じた。」「自分を含め、周囲の人も生きているということの奇跡に感動している。」「など、受講生に大きな影響を与えたようです。

また、今後他の学部では経験できない医学部ならではの講義を希望する声が多くあり、他大学学生の医学部の講義への関心の高さが感じられました。



単位互換 安原教授講義風景

## 平成12年度短期大学の単位互換授業 「今年は親準備講座で」

短期大学部では第3回目の単位互換授業が8月1日、2日の両日に集中講義で実施されました。50名を対象としましたが、29大学から192名と応募者が多数ありました。内容は、青年期において、親への準備性を育み、性に関わる健康について理解を深めることは重要と考え、「やさしい看護学 - 性と生殖に関する健康と育児 - 」としました。

1日目は助産学専攻の教員により、午前は女性のライフサイクルと発達課題、親へのプロセス、午後は性に関する健康問題と保健、各種避妊法と選択条件について講義および演習をしました。

2日目は小児および母性看護学の教員により、午前は乳児の成長発達、基本的な生活習慣について講義し、午後は実際に乳児モデルで、抱っこ、おむつ交換、着替え、沐浴、調乳、授乳など乳児の保育について体験してもらいました。

当日欠席者もあり実際の受講生は37名でしたが、その分ゆとりもあり和気藹々と演習ができました。「仕事と育児の両立はどうしたらよいか」など具体的な質問もあり、「育児は父親と母親の愛情が大切だ」「実際に避妊具を見てよかった」「生殖に関する正しい知識が得られてよかった」「子ど

もがとてもかわいく思えた」「育児は本当に大変だと思った」「体験できて楽しかった」などの感想がありました。受講生は近い将来をイメージできる機会となり、意義のある2日間だったようです。

(文責：短期大学部 宮中文字子)



# Trias Love 2000

## トリアス祭実行委員会

“Trias Love 2000”、これが今年のトリアス祭のテーマです。これは、『「博愛」、「愛情」、「人間愛」などの「愛」=Loveを持った医者や看護婦になろう。』という我々学生の思いを、記念すべき2000年度のトリアス祭のテーマに託しているものです。

本年度のトリアス祭実行委員会は、4月に25部門、約90名のメンバーで発足し、それ以来11月3日～5日のトリアス祭の成功に向けて、一丸となって活動しています。本年度は、“Trias”の原点に立ち返って、「学生」・「メディカルスタッフ」・「府民の皆さん」の三者それぞれが楽しんで頂けるよう、硬軟交えた様々な企画のあるトリアス祭にしていこうと意気込んでおります。また“Love”を意識し、周囲の人に気を配ることに徹したいと思っております。それにより、患者さんにも気軽に足を運んでいただける学園祭にしたいと思っております。

最後になりましたが、トリアス祭の開催にあたり、多大なご支援ご協力を頂いておりますOBの先生方、職員の方々、その他関係各位の皆様へ深く感謝致しますと共に、厚く御礼申し上げます。

多くの皆様のご参加を、実行委員一同心よりお待ちしております。  
なお、現時点で決定している企画および日程は、以下の通りです。

- 10月上旬～ スポーツ大会
  - 10月6日 トリアスナイトラウンジ
  - 10月21日 ダンスパーティー
  - 11月2日 仮装行列・前夜祭
  - 11月3～5日 トリアス祭 本祭
    - 講演会 本学OB・早川一光氏(5日)
    - 講演会 タレント・遙 洋子氏(3日)
    - 講演会 「病から何を汲むか」大石敏寛氏 ～HIV患者の心の内～(4日)
    - 医療関係展示(連日常設)
      - 「疾患と検査」 ～アナタのカラダはダイジョーブ!?～
      - 「五感と癒し」 ～キモチガイイってこういうこと～
      - 「21世紀の医療」その1 ～再生医学最前線～
      - 「21世紀の医療」その2 ～心ある医療を目指して～
      - 「美容と健康」 ～美白主義。美容と肌の健康を考える～
      - 「病との共生」 ～HIV患者の心の内～
    - 広小路音楽の夕べ(4日)
    - 演劇「パレード旅団」(3・5日)
    - 模擬店(連日) / フリーマーケット(連日) / お茶会(3日)
    - ライブ(連日) / 文化部展示(連日) / 献血(未定)
- その他、様々な企画を計画しております。

トリアス祭実行委員会

TEL&FAX ; 075 212 5410

HP address ; <http://www.box.kpu-m.ac.jp/~trias/>

E-mail ; [trias@box.kpu-m.ac.jp](mailto:trias@box.kpu-m.ac.jp)

## スポーツで交流 ～医大スポーツ祭典～

梅雨時にもかかわらず、晴天に恵まれた7月、医大スポーツ祭典が開催されました。今年から開催場所が富小路グラウンドに変わったソフトボールの大会では、薬剤部とHearts（第二内科）の強豪2チームが勝ち残った決勝戦となりました。初回には2 - 3でリードしていた薬剤部ですが、その後Heartsがヒットを連打、最終回にはなんと16点もの大量点を獲得して、22 - 3の大差でHeartsが2年ぶりの優勝を勝ち取りました。

また、本学体育館で行われたバレーボールの決勝戦は、パラマインナンコース（耳鼻科）としいたけ君（放射線科）の戦いとなり、フルセットの大接戦となりました。第1セットはしいたけ君がとりましたが、第2セットをとったパラマインナンコースの勢いは止まらず、第3セットにも勝利して逆転優勝となりました。1日2試合、計6セットもこなしての優勝です。

小さな子供さんも応援に駆けつけ、和やかな雰囲気の中で各チームとも楽しく汗を流していました。



### 特集

## 府立医大病院の認定看護師、ご存知ですか？

外科外来 WOC 看護認定看護師 笹井 智子

外科外来に配属となり、2年が過ぎました。外科外来に配属となったのはWOC看護認定看護師という資格を取得した後、院内活動を開始することが目的でした。認定看護師は、実践・教育・指導を3本柱とし看護ケアレベルの底上げを図ることを目的とされています。

WOCというのはWound・Ostomy・Continence、日本では創傷・オストミー（人工肛門のケア）、失禁看護と呼び、これらスキンケアに専門的に携わるナースをWOCナースと呼んでいます。

ストーマ（人工肛門）ケアは病棟や外来からの依頼を受け、術前～術後・社会復帰に際し、オストメイト（人工肛門を持っておられる方）にはよりよいケアの提供を、ナースには各々のレベルアップが図れるような助言ができるよう心がけ、退院後はストーマ継続看護の窓口として外科外来を基点にケアを行っています。

創傷部分では創傷治癒メカニズムの教育を受け、褥瘡（じくそう：圧迫による血流障害が原因で起こる皮膚損傷）のトータルケアをメインとした訓練をつんでまいりました。WOCナースの立場から「いかに治すか」という局所治療だけでは治癒困難な褥瘡を、ナースの視点から「いかに治していないか」という多くの問題点に着目しトータルサポートができればと考えています。失禁看護は便失禁に伴う皮膚障害に関わることが多いです。便失禁時の皮膚のケアは今まであたりまえだったケアから、かなり発想を転換させたケアへと変化してきています。

認定看護師って何？という中で始まり、自分に何ができるのかと、ただ無我夢中でこの2年間やってきたように思います。看護部・外科外来部長、スタッフの多大な協力のもと今では活動時間も広げていただき、今年は延べケア件数600～700件となる予定です。

### 現在院内で活動している主な内容

#### ストーマケア：

術前マーキング（ストーマの位置決定）

合併症のあるストーマ・社会復帰に際しての装具選択や、行われているケアへの評価と指導。

退院後はストーマ外来（外科外来の一角にある）にて晚期合併症のフォロー、日常生活指導、精神的援助、情報提供など本院でのストーマ造設後患者様に対応。

#### 創傷（主に褥瘡）ケア：

依頼に応じ、看護ケアの指導と医師の許可のもと創の治療。

看護部を依頼窓口とし、外科外来を基点に各部署を訪問しています。



## エディンバラ大学派遣学生報告レポート

### シャーロック・ホームズの母校を訪ねて

六学年 泰井敦子

去る5月1日より6月23日までの8週間、イギリスのEdinburgh大学における臨床実習の機会を頂きました。前半の4週間は、Royal Infirmary of EdinburghのRenal Medicineに、後半の4週間は、Western General HospitalのHaematologyに配属となりました。

Clinic(外来)は予約制の下、個室において、1人のdoctorと患者が対面し、時に学生が1~2人同席して行われます。nurseは、付き添いません。doctorは、これから診る患者の病歴などの概略を私に説明し、患者の待合場所まで自ら足を運び、患者を診察室へ招き入れ、学生が同席することへの同意を得てから話しを始めます。患者が納得するまでの丁寧な説明がなされるのですが、1人の患者にかけられる時間は限られているため、非常に密度の濃いやり取りとなっていました。採血が必要であれば、doctorがその場でさっさと自分で行います。体の不自由なお年寄りなどに対しては、doctorが服の着脱を手伝うこともありました。患者の足下にかがみこんで靴下を履かせている姿も、時には見られました。

病棟には、doctorのみならずnurse、dietician、pharmacistなど、様々な医療従事者がいます。doctorと一部の人々を除く全ての医療従事者には制服があり、一目で何を専門としているかが分かるようになっていました。これらの人々は、doctorと担当nurseのチームによる病棟回診にも必要に応じて参加し、それぞれの立場からのアドバイスをします。doctor同士のみならず、nurse、その他の医療従事者とのdiscussionが非常に活発に行われます。どの医療従事者も自分の仕事に誇りを持ち、役職などに関係なく堂々と意見を述べ、仕事に打ち込んでいる姿には、文化の違いを感じざるを得ませんでした。

チームによる病棟回診では、患者のプライバシーが非常に大切にされ、診察の際には、必ずベッドの周囲の足元までの長さの



Royal Infirmary of Edinburgh

カーテンが隙間なく閉められます。患者のベッドは全てリクライニング式で、ベッドサイドには、専用のゆったりとした背もたれ付きの立派な椅子が置いてあります。病棟では、毎日、午前と午後の1回ずつ、患者へのteaのサービスがあり、occupational therapist assistantが患者のヘアセットをしたり、子供のゲームの相手をしたりする姿も見られました。

doctor達の、学生の教育に対する情熱には、特筆すべきものがあり、どのdoctorも自分の持っている知識や経験を惜しみなく分け与えているように思われました。午後の早い時間帯に行われる、臨床実習の中の講義では、学生達はサンドイッチなどの昼食をとりながらdoctorの話に耳を傾け、そして活発なdiscussionをしていました。doctorが立ち歩いて学生達にパイを配りながら、スライドを示して講義をすることもありました。bed sideでの実習が数多く行われており、最終学年の学生ともなると、患者への接し方、問診や身体所見の取り方は、思わず溜息をついてしまうほど素晴らしく、学生の患者への態度には、自信と慈愛の精神が満ちているように感じられました。

各種のmeetingにも参加させて頂きました。チーム内や、放射線科医、病理医との定期的なmeetingはもちろんのこと、様々な医療従事者を講師として迎えるmeeting、病院全体でのdoctorの週に1回の勉強会もあります。どこでも必ず活発なdiscussionが繰り広げられ、コーヒーカップを片手に

参加するdoctorもあり、各自がそれぞれのスタイルを貫いているのが印象的でした。

Western General Hospitalには、主に癌患者を対象としたcancer catering centreがあります。このcentreは、ある乳癌患者の遺志により、彼女の闘病中から構想が練られ、病院から敷地の提供を受けて彼女の死の翌年に完成したものです。専任のnurse、clinical psychologist、relaxation therapistなどのスタッフとボランティアなどから構成され、趣旨に賛同するdoctorも協力しています。ここに、患者やその家族、友人が集まり、疾患に対する理解を深め、teaを飲みながら語り合ったり、スタッフによるrelaxation therapyを受けたりして過ごします。誰かが入ってくると、スタッフがにこやかな笑顔でさっと出迎えてくれます。centreにはあたたかな雰囲気満ちていました。

その他、hospiceの見学など、様々な経験をさせて頂きました。それらに共通しているのは、学生はもちろんのこと、医療に携わる人同士の風通しの良さです。異なる分野で働く人との交流を進んで行い、discussionが非常に活発です。doctorを含め、どのスタッフも相手の話にじっと耳を傾ける懐の深さを感じさせる、安定感のある人が多いです。また、病院内、病院間では、現代の医療を取り巻く人々の考え方の変化や経済効率など、様々な点に基づいて、常に前向きな模索がなされています。そして、その結果としてもたらされる変化の早さに驚かされることもしばしばでした。その熱意と行動力は、日本の見習うべきもののひとつであると思います。

最後になりましたが、今回のエディンバラ留学にあたって多くの先生方、先輩方、友人達からあたたかな励ましとアドバイスを頂きました。学生部長や係長をはじめ、学生課の皆様にもあたたかく相談にのって頂きました。心より御礼申し上げて、結びとさせて頂きます。



診察室にて



Western General Hospital

# Edinburgh 滞在中の日記より

六学年 宮地 充

今年の4月30日より6月24日までの8週間、エジンバラ大学で産婦人科、循環器科の研修をする機会を頂き行って参りました。以下、自分が滞在中につけていた日記より印象に残った分娩見学の時のものと他の国からの留学生と出会ったことについての日記を選んで報告としたいと思います。

5月4日

## 分娩を見学する

今日は分娩を見学することになっている。病棟で、どう振る舞えばいいか、いまいち要領がつかめず緊張する。女医さんに聞くと術衣(blueと呼ぶ、青いので)に着替えるように言われる。

まず病棟回診から始まる。今日回るのは分娩直前、直後の患者さんのいる病棟である。小さい声で報告がなされたり早口だったりするので聞き取るのがなかなか難しい。なんだか良く分からないまま病棟回診を終えていよいよメインの分娩見学へ。子宮口8cm開大の状態の妊婦さんがちょうど分娩室に入ってきたので助産婦さんと一緒に分娩室へ入っていく。分娩は日本で1回見たことがあるのだが。分娩室は最初は分娩室とは思わなかったぐらい全くふつうの病室という感じで、日本で見た時のような人工的な雰囲気を感じさせる部屋ではなかった。府立医大で見た時は分娩室はどちらかというと手術室という感じの部屋だったので本当に最初の方はここでしばらく経過を観察したあとにどこかもっと別の部屋に移動するのかと思っていた。さてこちらでは分娩の時は助産婦さんの手伝いをしながらともに分娩の経過を勉強するということが分娩実習の目的なので助産婦さんはいろいろと



エジンバラ大学の最終学年の学生と

仕事を言い付けてくれるのだが、どうやらこの助産婦さんはややなまりが強くすこし聞きとりにくい。それとやはり全然知らない人と協力して分娩を助ける、妊婦さんの前にいるという緊張があって何度も聞き返したりという悪循環に陥ってしまう。最初の方は水をとってきたり吐くためのお盆をとってきたりしていたが、分娩も進んでくると胎児心音を拾ったりしてなんとか助産婦さんともそれなりの信頼関係ができてきた。そしていよいよ児の娩出。助産婦さんが気をつけることを教えてくれ、またかなり近い距離で見ることができたので分かりやすかった。児の娩出の直前、直後は吸引を準備したりいろいろ手伝うことがあってあまり感動はなかったが分娩途中で助産婦さんが妊婦さんに「今のしんどいのは赤ちゃんが産まれてしまえば忘れるから」といったのには、なぜか感動した。妊婦さんは白人の方だったのでいきむと本当に真っ赤になるのが分かって辛そうだった。さらに児の体重の計測、胎盤の娩出、異常の有無の確認などを終えて今日の分娩実習は終了した。実習が終わるころには助産婦さんの言葉も聞き取りやすくなりそれなりに滑らかなコミュニケーションがとれるようになった。これは言語学を勉強している留学生も言っていたことだが、やはりお互いのことをよく知るようになるコミュニケーションがとりやすくなるということを実感した日だった。

にいるのだらうと思っていたら、ようやく今日会うことが出来た。他の学生と一緒に昼食をとっているとアジア系の学生が近寄ってきて「electiveか?」と声を掛けてきた。彼は香港から来ている医学生のエディで、4年生を終えて5年生になるところだという。滞在期間は1か月で今週で終わりということだ。中国系のなまりが強くやや聞き取りにくい。夕方になって彼とともに彼のフラットへ行く。他に3人の女子学生と住んでいるということであるが彼がほとんど料理を作るといふ。今日はニョッキとかき玉スープを作っていた。残りの3人も友好的な人たちで日本についてよく知っていたし2人は日本にも来たことがあるという。香港では日本文化がかなり浸透しているようで、映画、テレビ番組など本当に日本のことをよく知っているのが驚いてしまった。14日にもう一度彼らのフラットで日本人学生で手巻き寿司を香港からの学生で魚を蒸したものを、カレーなどを作ってパーティーをすることを約束して別れる。

## まとめ

エジンバラにいる間は分娩見学の時のようにひやひやすることも多かったですが一方で寿司を作ってごちそうしたりイギリスや他の国からの医学生と出会ったり楽しいことも多かったです。行く前は非常に緊張しましたが学ぶことの多い充実した滞在にできて良かったです。今回出会った多くの人との関係を今回限りで終わらせてしまうのではなく、これから手紙やメールなどでしっかり連絡をとっていきたいと思います。最後に今回の派遣に際して多くの方々にお世話になりました。どうもありがとうございました。

6月12日

## elective student

こちらに来てから他の国からの elective student (イギリスでは海外から来ている学生、あるいは海外に行く学生をこのように呼ぶ)に会う機会が少なく他の学生はどこ



分娩を見学した病院の玄関で

## エディンバラ臨床体験記

五学年 西崎 暁子

去る5月1日から6月23日までの8週間、スコットランドのエディンバラ大学で elective student として臨床研修をする機会をいただきました。

この研修への参加を希望するに当たって、私は主に二つの目的を挙げました。一つはイギリスの医療事情を自分の目で見ることで、もう一つは外国の医学教育のあり方を知ることです。学生という柔軟な立場からこれらを見ることで、また日本のシステムや教育のあり方を違った視点から見直せるのではないかと考えたのです。

最初の4週間の Department of Diabetes (糖尿病科)での外来実習はイギリスの医療事情を知る上で大変いい機会でした。システムの上でも、社会的背景においても様々な点で日本との違いを実感することができました。

イギリスには National Health Service という国営の無料の医療サービス提供システムがあります。サービスを受ける患者は特定の GP (家庭医) への登録が義務づけられており、日常の診察は GP が行い、専門医にかかる必要があれば GP を通じて紹介する仕組みになっています。実習を通して感じた日本とイギリスとの相違点は主に次の三つでした。まず GP と専門医の役割が明確に分かれているということ。このおかげで患者は大病院への通院回数が少なくすみ、専門医も患者の生活環境を把握しやすいというメリットがあります。次に診察した内容の記録にディクテーションという



Dr.パトリシアの個室でDMの外来が行われるようす  
コンピューターを使ってリスクを説明しているところ



インスリン注射の学生実習風景  
ナースが打ち方や器具の取り扱いを指導する方法を使っていることです。医師は患者の診察後、状態、所見、治療方針などをテープに吹き込み、これを秘書がおこして文書にし、カルテに閉じるとともに GP へ送付します。この方法は医師の時間をやりとりをスムーズにするのに大変役立っています。三つ目としては看護婦をはじめとする医療職の専門性が高いことです。DM 科では医師以外に看護婦、足専門士、栄養士などのスタッフがいて、それぞれ重要な役割を果たしていました。とりわけ sister nurse の役割は大きく、患者の家庭訪問をしたり、学校や会社、刑務所などでも DM への理解を高める活動を行い、患者の QOL の向上に大きく貢献していたのは印象的でした。

この科のクリニックの中で特に興味深かったのは、思春期の患者のクリニックです。日本の数倍も IDDM の発症率が高いイギリスでは、コントロールの難しい思春期の患者の治療が大きな課題となっています。患者の半数が親ではなく友達と受診しているのは意外でしたが、これは思春期の患者に心を開かせ、また友達に病気への理解を深めてもらって学校生活をスムーズにする有効な方法のようでした。むしろカウンセリングともいえるこのようなクリニックを設ける余裕があることに、イギリスの医療の質的な充実ぶりを見せつけられた思いでした。

後半の4週間は Department of Clinical Neuroscience で外来と病棟実習を行いました。ここでは最終学年の五年生に混じってセミナーや Bed Side Teaching を受けることができました。セミナーや teaching 以外の時間は外来や手術を見学に行ったり、入院患者に身体所見や病歴をとる練習をさせてもらうなど、自主的に学ぶ姿勢が要求されます。

エディンバラ大の学生は3年生から病院での実習が中心となり、かなり早い時期から患者に接しています。したがって日本の

学生に比べ患者とのコミュニケーションの取り方や clinical examination の技術はかなり優れています。まず自己紹介と握手をし、患者と目線の高さを合わせて話を聞き、ちょっとしたジョークを交えたり、そっと患者の肩に手を添えたりなどという配慮が身に着いているのにはレベルの違いを痛感させられました。

セミナーも teaching も身体所見をもとにしてどういう順で検査を進めるか、鑑別が必要な疾患とその頻度はどうかなど、患者を目の前にしたときどう対処していくかという観点から指導がおこなわれます。しかし画像等を読む機会はほとんどなく、これはコスト削減が重要な課題であるイギリスの政策を大きく反映した教育方針であるようでした。

この8週間で見る事ができたのは、イギリスで行われている医療のほんの一部にすぎませんが、そのなかにも数々の見習うべき要素があったと思います。もちろんイギリスのシステムも大きな問題を抱えており、国民性も社会的背景も違う日本では真似し難い点も多いと思いますが、少なくとも身体所見の取り方やコミュニケーションの取り方は今後教育の面で力を入れていただければ大きく変わっていただけるのではないかと思います。

エディンバラでの医療スタッフ、学生、患者との出会いは視野を広げ、さまざまな価値観を知るうえで本当に貴重な体験でした。このような機会を与えてくださったことに心から感謝するとともに、エディンバラでの研修の機会が今後とも後輩達に引き継がれていくことを願ってやみません。



病院の外壁にかかれていた絵  
落書きのような絵が雰囲気を  
明るくしている

エジンバラ大学への派遣事業は、高橋俊雄名誉教授のご寄附により設立された学生奨学資金より平成11年度事業として一部助成のもと行われたものです。

# 公開講座

## -- 21世紀の府民の健康づくり -- 京都府立医科大学公開講座

府民の皆さんにとって日常生活における医療・健康問題は重大な関心事となっております。広く開かれた大学として府民の皆さんに生涯学習の場を提供すること、また、医学的研究によって得られた成果を還元し、府民福祉の向上に貢献することを目的として、本年度も下記のとおり公開講座を開催します。

特に本年度は、「21世紀の府民の健康づくり」と題しまして、従来、図書館ホールでのみの開催としておりましたところを、本学図書館ホール（京都市会場）京田辺市中央公民館（京田辺市会場）の2会場での開催とすることで、より広く府民の方に受講していただけるようにしております。

また、本年度は医科大学、附属脳・血管系老化研究センター、医療技術短期大学部が一体となって取り組み、各先生方に医療一般、老化、看護といった様々な角度から講義をしていただくことにしております。

府民だより、ポスター等で広く府民の皆さんにPRしていく予定ですが、教職員・学生の皆さんの参加も心からお待ちしております！

11月6日(月) 京都市会場 本学図書館ホール (定員300名)	テーマ 「機能障害と看護」				
	「体を動かす大切さを知る」	整形外科学教室	助教授	長谷	斉
	「目を大切にしよう！」	眼科学教室	教授	木下	茂
	「耳鼻咽喉科とQOL(クオリティオブライフ)」	耳鼻咽喉科学教室	講師	村上	匡孝
		司会	眼科学教室	教授	木下茂
11月7日(火) 京都市会場 本学図書館ホール (定員300名)	テーマ 「痴呆と看護」				
	「痴呆とは何か」	精神医学教室	講師	上田	英樹
	「新しい痴呆のくすり」	老化研神経内科学部門	助教授	森	敏
	「痴呆のある人との接し方」	医療技術短期大学部	教授	岡山	寧子
		司会	老化研神経内科学部門	教授	中島健二
11月12日(日) 京田辺市会場 京田辺市中央公民館 (定員250名)	テーマ 「コミュニケーション障害と看護」 -- お悩みですか？見ること、聞くこと、話すこと --				
	「目を大切にしよう！」	眼科学教室	教授	木下	茂
	「聴こえの障害とリハビリテーション」	耳鼻咽喉科学教室	講師	村上	匡孝
	「『しゃべりにくい』障害とその治療」	歯科	助手	馬場	俊輔
	「失語症のある人の看護」	医療技術短期大学部	講師	藤田	淳子
		司会	老化研神経内科学部門	教授	中島健二

1 申込方法.....官製はがきで、住所、氏名、年齢、電話番号、受講希望日を記入の上、「公開講座」事務局あて申し込んでください。

(但し、当日に来訪された人でも空席があれば受講可)

2 募集期間.....京都市会場 平成12年10月26日(木)まで  
京田辺市会場 平成12年11月8日(水)まで

3 問合せ先.....庶務課庶務係 TEL 251 5210